

**広島版「学びの変革」アクション・プラン
総合的な学習の時間における
「課題発見・解決学習」ガイドブック
(改訂版)**



**平成 28・29 年度研究事業
広島県立教育センター**

広島版「学びの変革」アクション・プラン 総合的な学習の時間における 「課題発見・解決学習」ガイドブック



はじめに

広島県では、平成26年12月に、広島版「学びの変革」アクション・プランを策定し、「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した教育」を推進していくため、「課題発見・解決学習」を施策として取り組んでいるところです。

「課題発見・解決学習」は、総合的な学習の時間における探究的な学習と類似しており、児童生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力の育成を目指しています。そして、総合的な学習の時間においても同様で、探究的な過程の中で、児童生徒の主体的な学びを目指しています。

皆さんの学校では、児童生徒が主体的な学びを行っているでしょうか。

本ガイドブックは、各校の校内研修や学年会等の中で活用していただき、教職員による協働により、授業改善を進められるように作成しました。ガイドブックが少しでも役立ち、主体的に学ぶ児童生徒が一人でも多くなることを期待しています。

平成30年3月

ステップ1 児童生徒の実態を把握しよう。

p.1

ステップ2 資質・能力の設定をしよう。

p.3

ステップ3 資質・能力を育成する全体計画を作成しよう。

p.5

ステップ4 資質・能力を育成する年間指導計画を作成しよう。

p.12

ステップ5 資質・能力を育成する単元計画を作成しよう。

p.13

ステップ6 評価について考えよう。

p.17

ステップ7 実践の課題から改善しよう。

p.18

ステップ1 児童生徒の実態を把握しよう。

1 児童生徒には、どんな力が付いていて、何が課題でしょうか。

「基礎・基本」定着状況調査の質問紙の結果や各学校におけるアンケート調査の結果など、具体的なデータと児童生徒の実態を分析しましょう。

「基礎・基本」定着状況調査
「課題発見・解決学習」に関する児童生徒質問紙調査

領域	内容
課題の設定	○授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。 ○授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないかと予想しています。
情報の収集	○授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。 ○授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。
整理・分析	○授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。 ○授業では、情報を、比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して、何が分かるのかを考えています。
まとめ・創造・表現	○授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。 ○授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。
実行	○授業では、考えたり提案したりしたことについて、実際に取り組んでいます。
振り返り	○学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。 ○学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。
その他	○ふだんの生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っています。 ○授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。 ○授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。
総合的な学習の時間	○「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。

実態調査アンケート例

アンケート調査で既習の方法について把握しましょう

総合的な学習の時間 実態アンケート

学校名() 学年 組 番 氏名()

これはテストではありません。これまでに総合的な学習の時間で学習したことについてのアンケートです。

- 課題を決めるとき、自分で決めることができますか？
どちらかに○を付けましょう。(はい ・ いいえ)
- 課題を決めるとき、どんなことが難しいですか？あてはまるものに○を付けましょう。
①知らないことなので、調べたいことが思いつかない。
②調べたいことがたくさんあって、選ぶことができない。
③あまり興味のないことなので、調べたいと思わない。
④その他()
- 調べたいことをどのような方法で調べますか？あてはまるものに○を付けましょう(複数回答可)。
①アンケート(調査用紙) ②インタビュー(口頭)
③手紙 ④電話 ⑤メール ⑥図書資料
⑦インターネット ⑧実験・観察
⑨その他()
- 集めた情報をどのように整理したり考えたりしていますか？あてはまるものに○を付けましょう(複数回答可)。
①情報を比較して考えている。
②情報をグループに分けて考えている。
③情報をランキングして考えている。
④情報と情報を関連付けて考えている。
⑤その他()
- どんな方法で整理したり、分析したりしていますか？あてはまるものに○を付けましょう(複数回答可)。
①カードを使ってグループ分け ②グラフに表す ③マップに表す ④図に表す ⑤表にまとめる ⑥メリットとデメリットに分ける ⑦ビフォー・アフターで整理する
⑧その他()
- 調べたことや分かったことをどのような方法で伝えていますか？あてはまるものに○を付けましょう。
①新聞 ②レポート ③パンフレット ④ポスター ⑤報告会 ⑥プレゼンテーション ⑦パネルディスカッション
⑧シンポジウム ⑨その他()
- 調べたことや分かったことを伝えるとき、どのようなことに気を付けていますか？
①誰に対して伝えるのかという相手意識
②何のために伝えるのかという目的意識
③その他()

2 これまでの総合的な学習の時間で、どんな内容や方法を学習しているでしょうか。

- 全体計画、年間指導計画等の確認及び前学年の担当者等からの聞き取りにより、これまでの学習を把握する。
- 年間指導計画や聞き取りにより、小学校における学習（キャリア教育関連）について把握する。

3 児童生徒は、各学年のテーマに関して、どのようなことにどれくらい興味・関心をもっていますか？



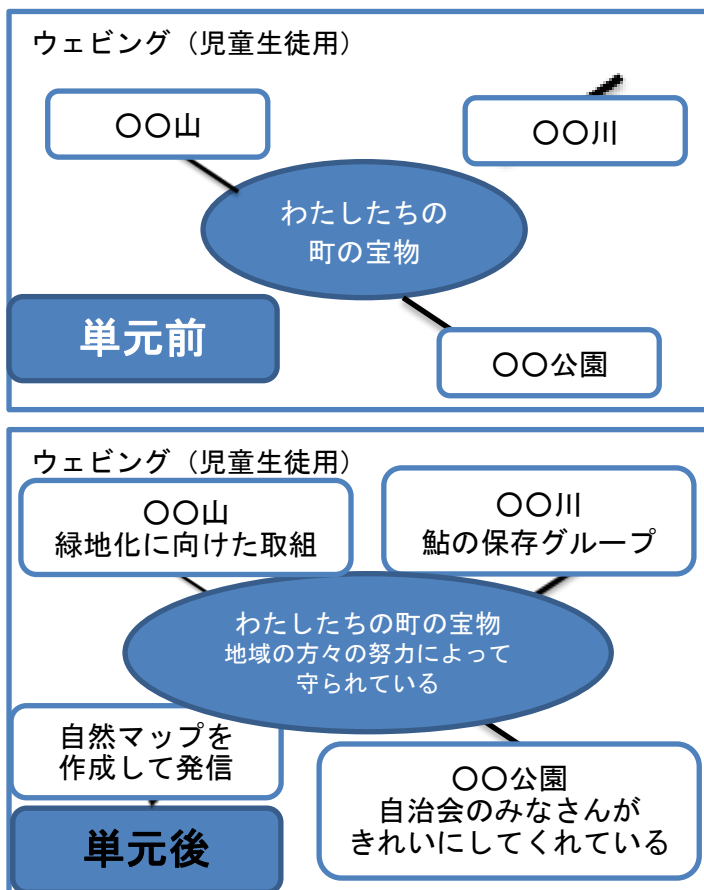
ウェビングの活用について

この手法は、考えを拡散することや知識の構造化に役立ちます。児童生徒は自分自身の知識を書き出すことで可視化し、メタ認知することができます。また、教師は、一人一人の考えを把握し、指導に生かすことができます。

単元計画を立てる際、児童生徒個人の興味・関心や既有事項を把握することができ、児童生徒の主体的な学びにつなげることができます。

- 1 個人思考のみ行う場合は、直接ワークシートに書き込みをします。
- 2 ウェビングの導入時には、言葉の連想になるため、多角的に思考を拡散するためにも、番号順に書き込む等の工夫が必要となります。
- 3 個人思考後、グループでの共有を行う場合は、付箋に書き込みます。個人の考えが把握できるように、付箋に名前を書き込みます。
- 4 グループ思考後、学級全体で共有する場合は、学級全体で把握できる大きさにカードを拡大すると可視化でき、学級全体で共有することができます。
- 5 単元前・単元後にウェビングを行うことで、児童生徒は自分自身の学びや成長を自覚することができます。教師は、学びの広がり进行评估することができます（下図参照）。

このように、児童生徒の実態や学習活動によって活用の仕方に工夫が必要です。教材研究の際、複数の教師でシミュレーションし、児童生徒の具体的な姿を想定しましょう。



上の枠内の5で示したように、「ウェビング」には、様々な活用の仕方があります。

単元前に実施することで、児童生徒が、その探究課題についてどの程度の知識をもっているのかを把握することができます。

左の例では、単元前の児童の知識には、いわゆる目に見える「山」「川」「公園」などが挙げられています。生活科等で親しんできたという経験も考えられます。

また、単元後に実施することで、知識の広がりや知識が概念化されたことなども把握することができます。

左の例では、それぞれの項目に追記されていたり、新たな項目ができていたりしています。また内容を見ていくと、事象の背景にあるものについても気づきが深まっていることが分かります。

また、記述の中に、自分たちが行ったことや自分の思いや考えなどが追記されていくと、探究課題がより自分事になると考えられます。

単元前と単元後のアンケートと共に、このような思考ツールを活用することで、児童生徒の学びを見取る一助にもなります。

ステップ2 資質・能力の設定をしよう。

1 広島版「学びの変革」アクション・プランにおける資質・能力（コンピテンシー）とは

社会が求めるニーズに応じた厚みのある多様な人材層の形成

～生徒一人一人の夢や目標に応じてコンピテンシーをさらに向上させるための特色ある教育活動を推進～

- ✓ 様々な分野で、広島や日本の成長・発展を担うことのできる人材の育成に向けた教育活動
- ✓ 国際機関など世界を舞台に活躍し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成に向けた教育活動 など

これからの社会で活躍するために必要な資質・能力（コンピテンシー）

「学び続ける」ためのコンピテンシーの好循環が必要

～ 深い学び ⇒ 「意欲・態度、価値観・倫理観」の向上 ⇒ さらに深い学び ～



新学習指導要領	広島版「学びの変革」アクション・プラン 「課題発見・解決学習」	総合的な学習の時間における 育てようとする資質や能力及び態度
知識及び技能	知識・情報	知識・技能
思考力，判断力，表現力等	スキル	学習方法に関すること
学びに向かう力，人間性等	意欲・態度 価値観・倫理観	自分自身に関すること 他者や社会とのかかわりに関すること

○総合的な学習の時間で育成することを目指す資質・能力は、よりよく課題を解決し、自分の生き方を考えるための資質・能力です。

○資質・能力の定義を可視化し、児童生徒と共有しましょう。

2 学校目標を基に教職員全員で、児童生徒の最高学年として目指す姿と課題を共有しましょう。

(1) 思考力、判断力、表現力等について

今まで「学習方法に関すること」で設定していた資質・能力です。新学習指導要領においては、『「思考力、判断力、表現力等」の育成については、課題の解決に向けて行われる横断的・総合的な学習や探究的な学習において、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の探究的な学習の過程が繰り返され、連続することによって実現される。この過程では、「探究的な見方・考え方」を働かせながら、それぞれの過程で期待される資質・能力が育成される。』と示されています。そのため、①～④の探究の過程を各段階で整理することが大切となります。

探究の過程における思考力、判断力、表現力等の深まり(例)			
①課題の設定	②情報の収集	③情報の整理・分析	④まとめ・表現
より複雑な問題状況 確かな見通し、仮説 ↑ 例) ■問題状況の中から課題を発見し設定する ■解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる など	より効率的・効果的な手段 多様な方法からの選択 ↑ 例) ■情報収集の手段を選択する ■必要な情報を収集し、蓄積する など	より深い分析、 確かな根拠付け ↑ 例) ■問題状況における事実や関係を把握し、理解する ■多様な情報にある特徴を見付ける ■事象を比較したり関連付けたりして課題解決に向けて考える など	より論理的で効果的な表現 内省の深まり ↑ 例) ■相手や目的に応じてわかりやすくまとめ表現する ■学習の進め方や仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとする など

参照：中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年）



「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力には、「①課題の設定」から「④まとめ・表現」の各段階で整理しましょう。

(2) 学びに向かう力、人間性等について

今まで「自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関すること」で設定していた資質・能力です。新学習指導要領では次の表のように、「自分自身に関すること」と「他者や社会との関わりに関すること」の両方の視点を踏まえた資質・能力となっているかを確認してみましょう。

学びに向かう力、人間性等			
	例) 自己理解・他者理解	例) 主体性・協働性	例) 将来展望・社会参画
自分自身に関すること	探究的な活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする ↑	自分の意思で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする ↑	探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、夢や希望などをもとうとする ↑
他者や社会との関わりに関すること	探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする ↑	自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする ↑	探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする ↑

参照：中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年）

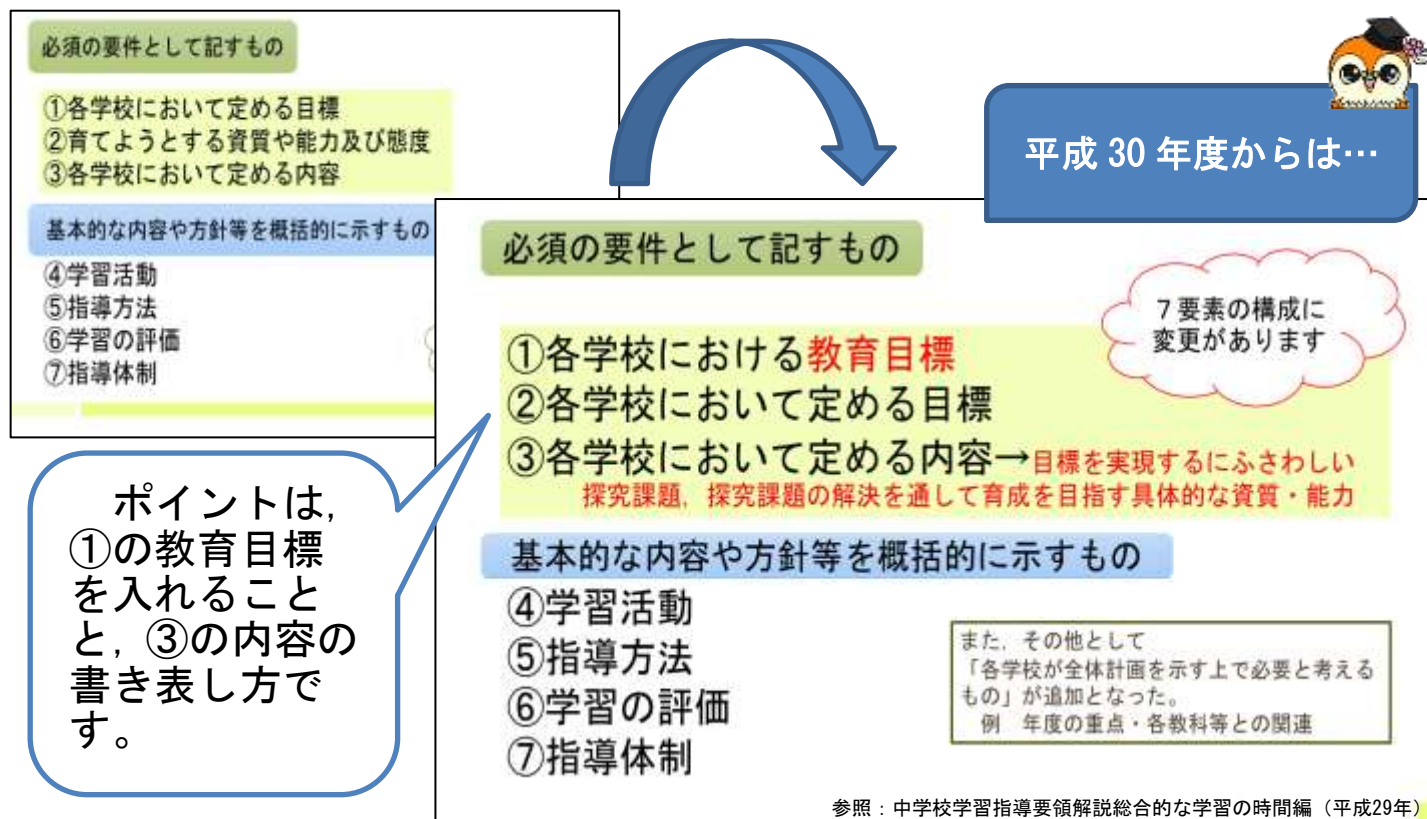
資質・能力の明確化

児童生徒の具体的な姿を想定し、学校で定めた資質・能力を共有しましょう。まずは、最終学年の姿について設定すると分かりやすいですね。

ステップ3 資質・能力を育成する全体計画を作成しよう。

1 全体計画に必要な要件とは

新学習指導要領を踏まえた全体計画では、右側に示した図のように、次の①から⑦の要件を記載することになります。



③各学校において定める内容
～探究課題と具体的な資質・能力を設定～

探究課題とは

- ・従来の「学習対象」と説明してきたものに相当
- ・課題について探究することを通して学ぶという学習過程も重要であることを含めて明確にするため、今回の改訂では「探究課題」と示した

中学校の例

- 「地域の自然環境とそこで起きている環境問題」
- 「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」
- 「ものづくりの面白さや工夫と生活の発展」
- 「職業の選択と社会への貢献」など

参照：中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成29年）

探究課題は、今回の学習指導要領で初めて出てきた言葉です。今までの「学習対象」と考えると分かりやすいと思います。

知識及び技能の捉え方

学習指導要領においては、習得すべき知識や技能については示されていません。各学校が設定する内容に応じて異なります。

2 小学校の総合的な学習の時間全体計画案の概要

今年度までの全体計画を基に、修正・加筆していきましょう。大きな変更点は、内容の書き方になります。探究課題と探究課題を解決することを通して育成する資質・能力について明記しましょう。



3 各校で定める総合的な学習の時間の目標の設定について



各学校において定める目標のポイント
～目標の書き表し方には具体化・重点化・付加～

「具体化」… 学校の実態に応じて具体的に書き込む

「重点化」… 5つの要素を示した上で、要素のいずれかを強調する

「付 加」… 別の要素を加える

目標の書き表し方
には、三つの例が示
されています。

決まった型がある
わけではありません。

赤字の部分が、
「具体化」の例です。

青字の部分が、
「重点化」の例です。

緑字の部分が
「付加」の例です。

学校で、目標を設定
する過程が共有され
ることが大切です！

各学校において定める目標の設定例

探究的な見方・考え方を働かせ、**地域の人、もの、ことに関わる**総合的な学習を行うことを通して、**目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し**、**自己の生き方を考えることができるようにするために**、以下の資質・能力を育成する。

- (1) **地域の人、もの、ことに関わる**探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、**地域の特徴やよさに気づき**、**それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。**
- (2) **地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし**、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、**根拠を明らかにしてまとめ・表現する力**を身に付ける。
- (3) **地域の人、もの、ことについての**探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、**持続可能な社会を実現するための行動の仕方**を考え、**自ら社会に参画しようとする態度**を育てる。

参照：小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成29年）

4 総合的な学習の時間の内容について



各学校において定める内容
～探究課題と具体的な資質・能力を設定～

各学校で定める内容	
目標を実現するにふさわしい 探究課題	探究課題を解決することを通して育成する 資質・能力
現代的な課題に対応する 総合的・横断的な課題 (国語・算数・理科・社会・体育・芸術) 地域や学校の実態に応じた課題 (地域の人々の暮らし、伝統文化など) 児童の興味・関心に基づく課題 【学習対象】	各教科等及び 総合的な学習の時間で 習得する知識が 相互に関連付けられ、 生きて働く知識・技能 探究的な学習の過程に おいて発揮される 思考力・判断力・表現力 自分自身との関わり 他者や社会との関わり 【資質・能力】

参照：中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成29年）

内容は、探究課題と探
究課題を解決すること
を通して育成する資質・能
力を示すことになりま
す。
資質・能力については
三つの柱を踏まえましょ
う。

センター小学校 総合的な学習の時間の内容				
目標を実現するにふさわしい 探究課題	探究課題を解決することを通して育成する資質・能力			
	知識及び技能 ①知識・技能	思考力、判断力、表現力等 ②思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等 ③主体性 ④協働性	
【第6学年】 地域の伝統や文化とその継承に 力を注ぐ人々(伝統文化)	知 地域の人々が伝統や文化を継承するために様々な努力をされていることに気付く(連綿性)。技 課題の解決に向けて、事象を比較する、分類する、関連付ける等の技能を身に付ける。	【課題の設定】対象と積極的に関わる中で、課題を設定する。【情報の収集】さまざまな情報の収集の方法から、効率性・効果的な手段を選択し、見直ししながら情報を集める。【整理・分析】収集した情報を比較・分類・関連付ける等して整理・分析をする。	・自分の意志で、目標をもって課題の解決に向け見通しをもった探究に取り組もうとする。	・自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする。
【第5学年】 地域の自然環境とそこに起きている環境問題(環境)	知 地域の自然環境は、様々な要因で常に変化する可能性があり、一定ではないことに気付く(有限性)。技 課題の解決に向けて、事象を比較する、分類する、関連付ける等の技能を身に付ける。	【まとめ・創造・表現】【実行】相手意識、目的意識を明確にし、ながら、まとめ、表現する。【振り返り】課題の解決に向けた活動を振り返り、新たな課題を見付ける。		

5 探究課題を解決することを通して育成する資質・能力の設定について

①知識及び技能について

総合的な学習の時間に育成したい知識や技能とは？

- ①各学校が設定する内容によって異なる。→学習指導要領には示されていない。
- ②各教科等の枠を越えた一般化された概念的なものを学ばせたい。

概念的な知識の例を考えると参考となるのが、国立教育政策研究所作成の資料「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」です。



持続可能な社会づくりの構成概念(例)

ESDの視点に立った学習指導の目標にある「持続可能な社会づくりに関わる課題」を見いだすためには、「持続可能な社会づくり」を捉える要素(構成概念)を明確にすることが必要です。このリーフレットでは、「持続可能な社会づくり」に関連する概念を、上位概念として、[1]人を取り巻く環境(自然・文化・社会・経済など)に関する概念と、[2]人(集団・地域・社会・国など)の意思や行動に関する概念の2つに大別しました。そして、多く要素が複雑に絡み合った「持続可能な社会づくり」をシステム(①多種多様な要素からなり、②それらが互いに作用し合い、③ある方向へ変化しながら、全体として一定の機能を果たすもの)として捉え、上位概念を更にそれぞれ3つの下位概念から構成しました。

人を取り巻く環境に関する概念

I 多様性

いろいろある

自然・文化・社会・経済は、起源・性質・状態などが異なる多種多様な事物(ものごと)から成り立ち、それらの中では多種多様な現象(出来事)が起きていること

II 相互性

関わり合っている

自然・文化・社会・経済は、互いに働き掛け合い、それらの中では物質やエネルギーが移動・循環したり、情報が伝達・流通したりしていること

III 有限性

限りがある

自然・文化・社会・経済は、有限の環境要因や資源(物質やエネルギー)に支えられながら、不可逆的に変化していること

人の意思・行動に関する概念

IV 公平性

一人一人大切に

持続可能な社会は、基本的な権利の保障や自然等からの恩恵の享受などが、地域や世代を越えて公平・公正・平等であることを基盤にしていること

V 連携性

力を合わせて

持続可能な社会は、多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し、互いに連携・協力することにより構築されること

VI 責任性

責任をもって

持続可能な社会は、多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンをもち、それに向かって変容・変革することにより構築されること

【注】赤字で示したキーワードは、それぞれの構成概念のイメージを喚起するために表現したものです。また、「持続可能な社会づくり」の構成概念は、これら6つの概念に限定されるものではありません。必要であれば新しい概念を加えることも考えられます。

例えば、探究課題が「身近な自然と、そこに起きている環境問題」であれば、次の例が挙げられています。

多様性

生物は、色、形、大きさなどに違いがあり、生育の環境が異なること

相互性

身近な自然において、生物はその周辺環境と関わって生きていること

有限性

自然環境は、様々な要因で常に変化する可能性があり、一定ではないこと

知識及び技能は、同じテーマでも各学校が設定した探究課題によって変わってきます。

では、技能についてはどうでしょうか？

体育科の水泳運動であれば、どんな技能が考えられるでしょうか。

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。

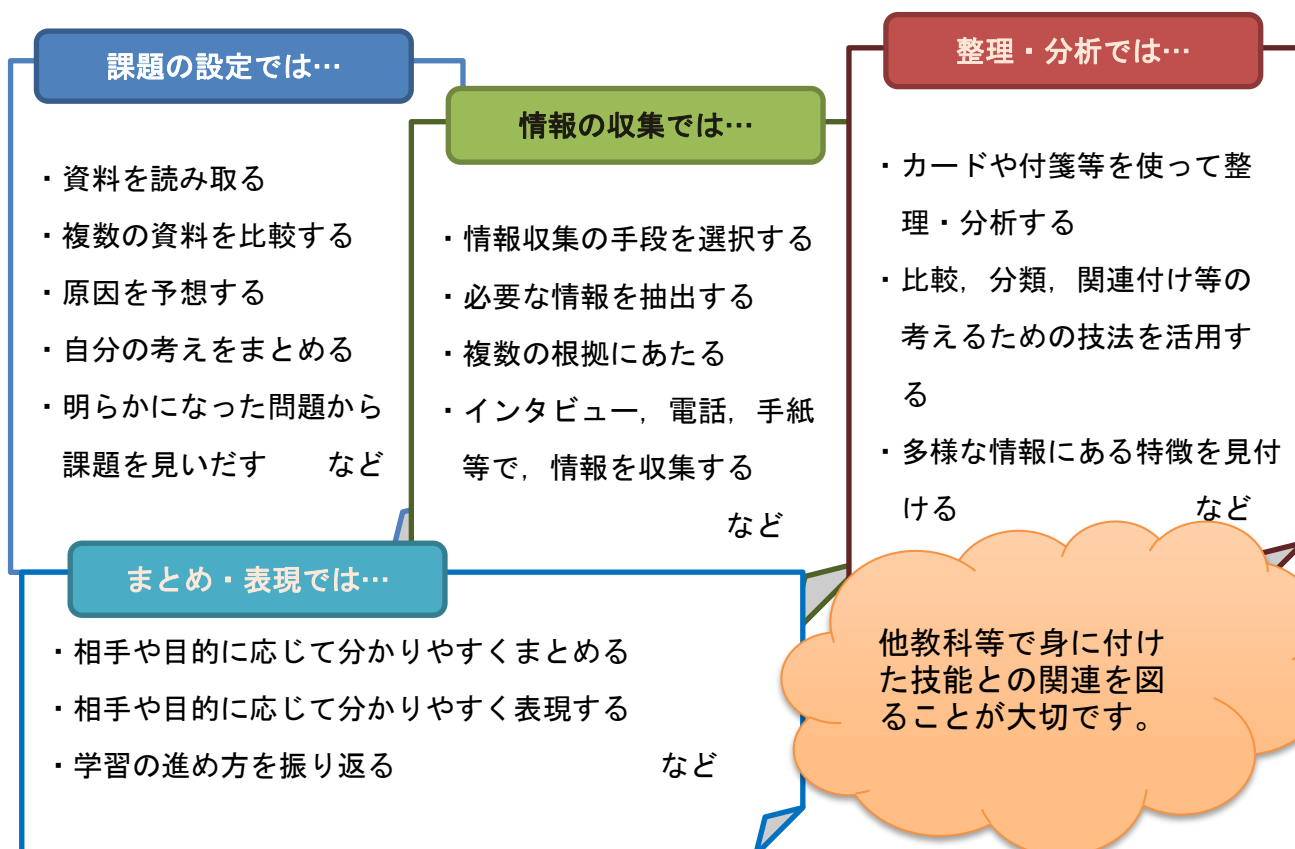
ア 浮いて進む運動では、け伸びや初歩的な泳ぎをすること。

イ もぐる・浮く運動では、息を止めたり吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方をすること。

小学校学習指導要領解説体育編（平成29年）には、上のように示されています。教科であれば、このように「知識及び技能」について具体的に明記されているわけです。しかし、総合的な学習の時間は、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編（平成29年）に次のように示されています。

技能についても、探究的な学習の過程が繰り返され、連続していく中で、何度も活用され発揮されていくことで、自在に活用できる技能として身に付いていく。各学校においては、探究的な学習の過程に必要な技能の例を明示していくことなども考えられる。

総合的な学習の時間における技能は、「探究的な学習の過程に必要な技能」といえます。探究の過程である「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のそれぞれにおいて、必要な技能がありますので、各学校で特に身に付けさせたい技能について、明記することとも考えられます。



全体計画案 ～小学校～

30年度 センター小学校 総合的な学習の時間 全体計画案

保護者・地域の願い
- 基礎学力の定着 - 豊かな社会性 - 健康で安全な生活 - 地域行事への積極的な参加

センター小学校教育目標
主体的に学び、さまざまな人々と協働して新たな価値を創造する児童の育成

児童の実態
さまざまな事象に対して好奇心をもち、積極的にいかかわろうとする。課題を追究していく過程においては、主体的な取組になりやすい。

センター小学校 総合的な学習の時間の目標
探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるための資質・能力を育成する。 (1) 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。 (2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 (3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。
育成することを目指す資質・能力
【知識及び技能】①知識・技能 【思考力、判断力、表現力等】②思考力・判断力・表現力 【学びに向かう力、人間性等】③主体性 ④協働性

センター小学校 総合的な学習の時間の内容				
目標を実現するにふさわしい 探究課題	探究課題を解決することを通して育成する資質・能力			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体性	④協働性
【第6学年】 地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々(伝統文化)	知 地域の人々が伝統や文化を継承するために様々な努力をされていることに気付く(連携性)。 技 課題の解決に向けて、事象を比較する、分類する、関連付ける等の技能を身に付ける。	【課題の設定】対象と積極的に関わり、課題を設定する。 【情報の収集】さまざまな情報の収集の方法から、効果的・効率的な手段を選択し、見直しをしながら情報を集める。 【整理・分析】収集した情報を比較・分類・関連付ける等して整理・分析をする。 【まとめ・創造・表現】【実行】相手意識、目的意識を明確にし、ながら、まとめ、表現する。 【振り返り】課題の解決に向けた活動を振り返り、新たな課題を見付ける。	・自分の意志で、目標をもって課題の解決に向け見通しをもった探究に取り組もうとする。	・自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする。
【第5学年】 地域の自然環境とそこに起きている環境問題(環境)	知 地域の自然環境は、様々な要因で常に変化する可能性があり、一定ではないことに気付く(有観性)。 技 課題の解決に向けて、事象を比較する、分類する、関連付ける等の技能を身に付ける。	【課題の設定】対象との体験的な関わりを通して、課題に気付く。 【情報の収集】さまざまな情報の収集の方法を知り、見直しをもった情報を集める。 【整理・分析】収集した情報を比較・分類等して整理・分析をする。 【まとめ・創造・表現】【実行】相手意識、目的意識を尊重しながら、まとめ、表現する。 【振り返り】課題の解決に向けた活動を振り返り、新たな課題を見付ける。	・自分の意志で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする。	・自他のよさに気付く。協力して問題の解決に向けた活動に取り組もうとする。
【第4学年】 安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々(安全)	知 地域の人々が安心・安全な町にするために様々な努力をされていることに気付く(連携性)。 技 課題の解決に向けて、事象を比較する、分類する等の技能を身に付ける。	【課題の設定】対象との体験的な関わりを通して、課題に気付く。 【情報の収集】さまざまな情報の収集の方法を知り、見直しをもった情報を集める。 【整理・分析】収集した情報を比較・分類等して整理・分析をする。 【まとめ・創造・表現】【実行】相手意識、目的意識を尊重しながら、まとめ、表現する。 【振り返り】課題の解決に向けた活動を振り返り、新たな課題を見付ける。	・自分の意志で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする。	・自他のよさに気付く。協力して問題の解決に向けた活動に取り組もうとする。
【第3学年】 防災のための安全な町づくりとその取組(防災)	知 地域を様々な災害から守るためにいろいろな取組がなされていることに気付く(多様性)。 技 課題の解決に向けて、事象を比較する、分類する等の技能を身に付ける。	【課題の設定】対象との体験的な関わりを通して、課題に気付く。 【情報の収集】さまざまな情報の収集の方法を知り、見直しをもった情報を集める。 【整理・分析】収集した情報を比較・分類等して整理・分析をする。 【まとめ・創造・表現】【実行】相手意識、目的意識を尊重しながら、まとめ、表現する。 【振り返り】課題の解決に向けた活動を振り返り、新たな課題を見付ける。	・自分の意志で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする。	・自他のよさに気付く。協力して問題の解決に向けた活動に取り組もうとする。

教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力等)

〈学習活動〉 - 第3学年は防災、第4学年は安全、第5学年は環境、第6学年は伝統文化から探究課題を設定する。 - 単元は学年で開発し、中学年は年間2～3単元、高学年は年間2単元程度とする。 - 学級ごとに1年間1テーマでの取組を基本とする。	〈指導方法〉 - 児童の課題意識を連続発展させる支援 - 個に応じた指導の工夫 - 諸感覚を駆使する体験活動の重視 - 協働的な学習活動の充実 - 教科との関連的な指導の重視 - 対話を中心とした個別支援の徹底 - 言語活動による体験の意味の自覚化	〈指導体制〉 - 運営委員会における校内の連絡調整と支援体制の確立 - カリキュラム管理室を拠点とした情報の集積と活用 - 地域教育力の人材バンクへの登録と効果的運用 - ワークショップ研修の重視 - 担任外の教職員による支援体制の樹立 - メディアセンターとしての余裕教室の整備・充実	〈学習評価〉 - ポートフォリオを活用した評価の充実 - 観点別学習状況を把握するための評価基準の設定 - 個人内評価の重視 - 指導と評価の一体化の充実 - 授業分析による学習指導の評価の重視 - 学校運営協議会における教育課程に対する評価の実施
---	---	---	--

〈各教科等との関連〉		第5学年	第6学年
第3学年	・各学年において、各教科等との関連を図るため、探究課題に応じた知識・技能及び内容から、かかわりの深いものを示す。 ・学校行事等の全学年にかかわるようなものについても示す。 ・年間指導計画と対応をさせる。		

〈地域等との連携〉	
・地域のどのような方と連携を取ればよいのか、また校内体制等を示す。 ・地域の自治会長と ・外部機関との連携についても同様に示す。 ・防災については、	・

保護者・地域の願い

- ・学力の向上
- ・豊かな社会性
- ・健康で安全な生活
- ・地域への貢献

センター中学校教育目標

主体的に学び、さまざまな人々と協働して新たな価値を創造する生徒の育成

生徒の実態

- ・考えられた課題については、粘り強く取り組むことができる。その一方で、自ら課題を見出し、見直しをもって解決したり、表現したりする力には課題がある。

センター中学校 総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになるための資質・能力を育成する。

(1) 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。

(2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。

(3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

育成することを目指す資質・能力

【知識及び技能】①知識・技能 【思考力、判断力、表現力等】②思考力・判断力・表現力 【学びに向かう力、人間性等】③主体性 ④協働性

センター中学校 総合的な学習の時間の内容				
目標を実現するにふさわしい 探究課題	探究課題を解決することを通して育成する資質・能力			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体性	④協働性
【第3学年】 地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々(地域、伝統文化)	知 地域の地理的条件や環境条件等の現状を把握した上で、地域の伝統や文化を創造していくために様々な人々が関わっていることに気付く(相互性)。 技 課題の解決に向けて、複雑な問題状況における事実や関係を把握し、事象を比較する、分類する、関連付ける等の技能を身に付ける。	【課題の設定】 ・複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する。 ・仮説を立て、検証方法を考え計画を立案する。 【情報の収集】 ・目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。 ・必要な情報を収集し、類型化して蓄積する。 【整理・分析】 ・複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもったり、視点を定めて多様な情報を分析する。 【まとめ・創造・表現【実行】】 ・相手や目的、意図に応じて論理的に表現する。 【振り返り】 ・課題の解決に向けた活動を振り返り、新たな課題を見付ける。 ・学習の進め方や仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとする。	・課題に誠実に向き合い、課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする。	・互いの特性を生かすなど、課題の解決に向けて探究活動に協働的に取り組もうとする。
【第2学年】 職業の選択と社会への貢献(職業)	知 働くことの意義や人口減少社会の中で、求められる職業の在り方について気付く(責任性)。 技 課題の解決に向けて、複雑な問題状況における事実や関係を把握し、事象を比較する、分類する、関連付ける等の技能を身に付ける。	【課題の設定】 ・複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する。 ・仮説を立て、検証方法を考え計画を立案する。 【情報の収集】 ・目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。 ・必要な情報を収集し、類型化して蓄積する。 【整理・分析】 ・複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもったり、視点を定めて多様な情報を分析する。 【まとめ・創造・表現【実行】】 ・相手や目的、意図に応じて論理的に表現する。 【振り返り】 ・課題の解決に向けた活動を振り返り、新たな課題を見付ける。 ・学習の進め方や仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとする。	①知識及び技能については、探究課題を通して身に付けさせたい概念的な知識についてと探究課題を解決するために必要な技能について具体的に示す。 ②思考力・判断力・表現力等については、探究のプロセスに沿って具体的に示す。 ③学びに向かう力、人間性等については、各学校が定めることとされてきた自分自身に関することと他者や社会との関わりに関することを参考に、両者のつながりを検討し、示す。	
【第1学年】 商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会(地域経済)	知 地域経済の現状を把握し、商店街を活性化させるためにさまざまな努力をされていることに気付く(連携性)。 技 課題の解決に向けて、複雑な問題状況における事実や関係を把握し、事象を比較する、分類する、関連付ける等の技能を身に付ける。	【課題の設定】 ・複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する。 ・仮説を立て、検証方法を考え計画を立案する。 【情報の収集】 ・目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。 ・必要な情報を収集し、類型化して蓄積する。 【整理・分析】 ・複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもったり、視点を定めて多様な情報を分析する。 【まとめ・創造・表現【実行】】 ・相手や目的、意図に応じて論理的に表現する。 【振り返り】 ・課題の解決に向けた活動を振り返り、新たな課題を見付ける。 ・学習の進め方や仕方を振り返り、学習や生活に生かそうとする。		

教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力等)

〈学習活動〉 ・第1学年は地域経済、第2学年は職業、第3学年は地域、伝統文化から探究課題を設定する。 ・単元は学年で開発し、年間1～2単元程度とする。	〈指導方法〉 ・生徒の課題意識を連続発展させる支援 ・個に応じた指導の工夫 ・諸感覚を駆使する体験活動の重視 ・協働的な学習活動の充実 ・教科との関連的な指導の重視 ・対話を中心とした個別支援の徹底 ・言語活動による体験の意味の自覚化	〈指導体制〉 ・運営委員会における校内の連絡調整と支援体制の確立 ・地域学校協働活動推進員等のコーディネーターとの連携体制 ・地域教育力の人材バンクへの登録と効果的運用 ・ワークショップ研修の重視 ・担任外の教職員による支援体制の樹立 ・メディアセンターとしての余裕教室の整備・充実など	〈学習評価〉 ・ポートフォリオを活用した評価の充実 ・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定 ・個人内評価の重視 ・指導と評価の一体化の充実 ・授業分析による学習指導の評価の重視 ・学校運営協議会における教育課程に対する評価の実施
---	--	---	--

〈各教科等との関連〉

第1学年 第3学年 学校行事等

- ・各学年において、各教科等との関連を図るため、探究課題に応じた知識・技能及び内容から、かかわりの深いものを示す。
- ・学校行事等の全学年にかかわるようなものについても示す。
- ・年間指導計画と対応をさせる。

〈地域等との連携〉

- ・地域の自治会長や商店街の組合長
- ・地域の現状を把握する際には、官庁
- ・地域のどのような方と連携を取ればよいのか、また校内体制等を示す。
- ・外部機関との連携についても同様を示す。
- ・依頼する。

ステップ4 資質・能力を育成する年間指導計画を作成しよう。

1 テーマに関する学習内容のゴールは？教材研究を深めましょう。

① テーマに関する価値ある探究課題とは？

実社会における課題について考えましょう。

教科等との学習内容や知識及び技能とどのように関連できますか。

自分事として考え、協働して、情報の収集や教材研究をしましょう。

② 児童生徒の実態から、「どのような学習内容を設定するか？」「どのように社会とつながるか？」という視点で考えてみましょう。

2 総合的な学習の時間の学習活動と各教科等の学習内容や関連する資質・能力について考えましょう。

平成30年度 総合的な学習の時間 年間指導計画												
【知識及び技能】①知識・技能 【思考力、判断力、表現力等】②思考力・判断力・表現力 【学びに向かう力、人間性等】③主体性 ④協働性												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学校行事	← 学校行事，地域行事について											
地域行事												
外部専門機関等	← 外部専門機関等について … 全体計画の〈地域等との連携〉とのリンクを図りましょう。											
総合的な学習の時間	単元名											
	主な内容	← 資質・能力【知識及び技能】										
	① 知識・技能	← 資質・能力【思考力，判断力，表現力等】										
	② 主体性	← 資質・能力【学びに向かう力，人間性等】										
各教科等との関連	国語											
	社会											
	算数	← 育てたい資質・能力と各教科等との関連を図りましょう。										
	理科											
	体育											
	音楽											
	図画工作											
	特別の教科 道徳											
	特別活動											

資質・能力で
つなぐ

知識・技能で
つなぐ

内容で
つなぐ

★ 教育課程全体を把握しましょう。

- ①地域の行事 ②地域の人材 ③行政関係者 ④専門家等の外部講師の「人・もの・こと」について教職員で共有しましょう。
- 各教科等の1年間の学びを把握し、児童生徒の効果的な学習となるよう、単元構成について考えましょう。
- 小学校では、各教科等の系統性について、他の学年の各教科等の内容について把握しましょう。
- 中学校、高等学校では、担当する教科以外の他の教科の学習内容について把握しましょう。
- 単元の入れ換えについても考慮しましょう。



ステップ5 資質・能力を育成する単元計画を作成しよう。

- 1 資質・能力を育成する単元計画について考えましょう。
単元の途中で、児童生徒の学習とのずれが生じた場合、修正を行いましょう。

単元計画のための教材研究

単元の目標

地域のひと・もの・こととのかかわりを通して、自ら課題を設定し、体験活動や調査活動を行い、地域の良さや人々の願いについて理解し、自分たちができることを考え、実行することができる。

学習過程	学習対象を限定する場合	複数の学習対象がある場合
課題の設定 ※導入の動機付け	(例) 査閲する対象の見学・体験活動 具体物の提示、GTの願い 資料や写真による課題提示 ※思考ツールを活用し、理由づけや見通しを持たせながら課題を設定する。	(例) 児童生徒の興味関心から ウェブの活用
情報の収集	見学・体験活動、インタビュー、アンケート調査(地域、地域外) フリップボードの活用、図書資料、観察・実験 ICTの活用(町・市・県・官公庁のHP、VTR) SNSの活用	
整理・分析	カード、グラフ、マップ、図、ベン図、座標軸、メット・デメット、 ビフォー・アフター等 ※「単元改善シート」参照	
まとめ・創造・表現	新聞、パンフレット、ポスター、レポート、報告会、プレゼンテーション パネルディスカッション、シンポジウム等 ※対象エリア(学校、地域、市、県、全国、他国)	
実行	地域の人々の願いや思い、児童生徒の願いや思いが実現する活動。	
振り返り	実行における評価(自己評価、相互評価、他者評価)改善案の構築	

【課題の設定】

○児童生徒の実態把握を生かした、主体的な学びにつながる導入の工夫をしましょう。

【情報の収集】

○公共の図書館や各官庁、各県市町の施設を積極的に活用しましょう。

※県立図書館の有効活用をしましょう。

○ICTを効果的に活用し、遠隔地からの情報収集も工夫しましょう。

【まとめ・創造・表現】

○相手や目的に応じた多様な方法の選択を児童生徒自身で選択しましょう。

【実行】

◎実社会とのつながりを考慮しましょう。

【振り返り】

○児童生徒自身が学びを振り返り、新たな課題へとつながる工夫をしましょう。

学習の導入時の動機付けは要注意！！「問題解決学習」と「プロジェクト学習」では、導入時の動機付けが異なります。

○学習対象を限定する場合・・・「問題解決学習」「課題解決学習」等

学ばせたい対象がある場合は、その対象に興味・関心をもたせる工夫が必要です。 ※教科の導入にも活用できます。

○複数の学習対象がある場合・・・「プロジェクト学習」等

地域の素材等どの対象でも児童生徒の学びが深まる場合は、ウェブ等拡散的思考から興味・関心をもたせる工夫が必要です。

単元計画作成シート

単元名			
単元目標			
探究課題			
育てようとする資質・能力			
主な学習活動		評価規準 及び評価 方法	教科等 との関 連
探究の過程	探究的な学習		

【単元目標】

○目指す児童生徒の姿やゴールを明確にし、共有しましょう。

【学校で定める資質・能力の定義】

○資質・能力の育成のための学習活動にするために、各学校で定める資質・能力を明確にし、共有しましょう。

【学習内容】

○探究課題及び探究課題を通して育成する資質・能力を明確にし、共有しましょう。

【探究の過程】

○探究の過程は固定されていません。児童生徒の思考に応じた過程にしましょう。

【学習活動】

○主体的・対話的で深い学びにつながり、資質・能力の育成を目指す学習活動にしましょう。

【評価計画】

○資質・能力の定義を踏まえ、具体的な児童生徒の姿で評価規準を作成しましょう。

○資質・能力に応じた多様な評価方法を検討しましょう。

【教科等との関連】

○各教科等との授業レベルでの具体的な関連として、学習指導要領における内容や知識、技能との位置付けを書き出すことで、他教科における学習指導に生かすことができます。

平成 28 年度

【呉市立原小学校】 第4学年 「原のまちを守り隊～原の防災グッズを開発してPRしよう～」
単元計画（全 25 時間）

次	時	学習内容	評価規準（評価方法）、資質・能力【 】	教科等との関連
1	1	課題の設定 ○ 1学期の学習の振り返りをする。 ○ 防災マップを届けた地域の一人暮らしのお年寄りの方から、防災マップの感想を聞き取ったことをまとめることで、次の課題を設定する。 ・ 地域の様々な年代の人の考えを知るための方法を考える。	○ 原の地域や人に関心をもち、学習計画を立て、見通しをもって取り組もうとしている。 （ワークシート、児童観察） 【主体性・積極性】	社会科 「くらしを守る」 学習したことを基に安全マップにまとめ、今の自分たちにでもできることを考える。 （4）ア
2	2 3 4	情報の収集 ○ 原のまちの防災について設定した課題について、必要な情報を収集する。 ・ 地域の人に災害が起きたときに準備しているものや困っていることを調査するアンケートを作る。 ・ 国語科の学習を生かしてアンケートを作る。 ・ 人が集まる場所で調査活動をする。 ・ 防災について研究している呉工業高等専門学校先生や学生にアドバイスをもらいながら災害時に必要なものについて調べる。	○ 質問の仕方や回答欄を工夫してアンケートを作っている。 （ワークシート、児童観察） 【論理的思考力・判断力・表現力】 ○ 地域の課題解決に向けて、自分たちができることは何かということを意識しながら、活動に取り組もうとしている。（フリップボード、ワークシート、児童観察） 【郷土愛】 ○ 災害時に安全に避難するための必要な情報を自分から求め、主体的に調べたり、地域や関係機関、専門の方に働きかけたりしている。 （ワークシート、児童観察） 【主体性・積極性】	国語科 「報告します、みんなの生活」 アンケート調査をして分かったことと考えたことを、図表やグラフを用いながら、聞き手に分かりやすく筋道を立てて話して報告することができる。 A（1）ア・イ 社会科 地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことや考えたことを表現することができる。（3）
	5 6 7 8	整理・分析1 ○ 収集した情報を基に、原の地域の人災害時に困ることや必要なものについて話し合う。 ・ 調査結果をまとめる方法を考える。	○ 調査結果を分かりやすくするための方法について進んで考えを出している。（児童観察） 【主体性・積極性】	算数科 「調べ方と整理のしかた」 資料を観点別に整理する方法を考えたり、表を活用して問題解決を図ったりすることができる。 D（4）ア

2 資質・能力を育成する単元計画について考えましょう。【演習】

- ☐ 資質・能力を育成する学習活動になっているでしょうか。
 - ☐ 児童生徒の具体的な姿を見取することができる評価規準になっているでしょうか。
 - ☐ 教科等との内容や知識、技能が授業レベルで関連されているでしょうか。
 - ☐ 児童生徒の思考の流れに沿っているでしょうか。必然性がありますか。
 - ☐ 児童生徒が主体的に学ぶ、探究のまとまりになっているでしょうか。
 - ☐ 実社会とのつながりのある学習になっているでしょうか。
 - ☐ 振り返りの場が設定してあるでしょうか。
- 



(例) 探究課題【地域の伝統文化】

単元名			
単元目標	〇〇〇〇〇〇〇〇する学習を通して、△△を学び、□□の資質や能力及び態度を育てる。		
主な学習活動		評価規準及び評価方法	教科等との関連
【課題の設定】	〇千田太鼓について太鼓保存会の人に話を聞き、調べてみたいことを決める。 〇現段階で知っていることを出し合う。調べたいことをどのような方法で調べるか考え、情報の収集をする。 〇調べたことを新聞にまとめる。 〇教室に掲示する。 〇太鼓保存会の人に太鼓の打ち方を学ぶ。 〇パートごとに練習をする。 〇一斉練習をする。 〇学習発表会で発表する。 〇地域の祭りで発表する。 〇感想文を書く。 〇地域の方にアンケートをとり、成果と課題を明らかにする。 〇新たな課題を設定する。		
【情報の収集】			
【まとめ・創造・表現】			
【実行】			
【まとめ・創造・表現】			
【振り返り】			

(例) 探究課題【職業】

単元名			
単元目標	〇〇〇〇〇〇〇〇する学習を通して、△△を学び、□□の資質や能力及び態度を育てる。		
主な学習活動		評価規準及び評価方法	教科等との関連
【課題の設定】	○思考ツールを活用して、自分の将来の夢のイメージを広げ、将来つきたい職業について調べてみたいことを決める。		
【情報の収集】	○働くということについて、情報の収集をする。 ・行政機関との連携を行い、地域の労働に係る現状を知る。 ・職場体験活動を通して、情報の収集をする。		
【整理・分析】	○調べたことを基に、相違点について情報を整理・分析する。 ・思考ツールを活用して、情報を比較したり、分類したりする。		
【まとめ・創造・表現】	○自分の将来の夢をかなえるためのプランシートを作成する。 ・資料等の根拠を明らかにする。		
【実行】	○学校の文化祭で調べたことを発表する。 ○地域の文化祭で調べたことを発表する。		
【振り返り】	○自己の成長を振り返る。 ・成果と課題を整理し、新たな課題を設定する。		

3 主体的な学びにするためには、どのような指導が必要でしょうか？

学習過程	「課題発見・解決学習」における指導の工夫								
課題の設定	◎児童生徒の実態を基にした導入時における動機付けの工夫								
	学習対象を限定する場合	複数の学習対象がある場合							
	(例) 意図する対象の見学・体験活動 具体物の提示, G Tの願い 資料や写真による課題提示 □ 児童が学習内容についての知識を持っていない場合 ① 複数の体験活動を通して、多くの情報を収集し、体験を比較させて考えさせる。 ② ウェビングを活用 個人⇒グループ 個人で収集した情報を取り出す。共有。 ③ KJ 法的な手法を活用 グループ 情報を分類整理し、情報の把握をする。 ④ 問題の序列化を行う。個人又はグループ 理由付けをしながら課題を設定する。	(例) 児童生徒の興味・関心から課題から設定するウェビングの活用 □ 児童が学習内容についての知識を持っている場合 ① ウェビングやカードを活用し、個人の既有知識を書き出し認識する。 ② グラフなどの統計や写真等の提示し、児童の認知基準とのずれを生かす。 ③ 見学やインタビューなど体験活動を行い、認識との違いについて確かめる。 ④ ウェビングやカードを活用し、収集した情報を再検討し、課題を設定する。							
◎「学ぶための技法」を活用し、理由付けや見通しをもたせながら課題を設定する。									
情報の収集	◎相手や目的に応じた、多様な情報収集の方法 見学・体験活動、インタビュー、アンケート調査（地域、地域外） フリップボードの活用、図書資料、観察・実験 I C Tの活用（県・市・町・官公庁のHP、V T R）、SNSの活用								
整理・分析	◎児童生徒の思考に沿った、必然性のある思考ツールの活用								
	<table><thead><tr><th>思考</th><th>思考ツール</th></tr></thead><tbody><tr><td>比較する</td><td>ベン図(2つのベン図, 3つのベン図) 二次元表, メリット・デメリット ビフォー・アフター 等</td></tr><tr><td>分類する</td><td>KJ法的な手法, ベン図 マトリックス表(座標軸) 等</td></tr><tr><td>関連付ける</td><td>コンセプトマップ ウェビングマップの活用 等</td></tr></tbody></table>	思考	思考ツール	比較する	ベン図(2つのベン図, 3つのベン図) 二次元表, メリット・デメリット ビフォー・アフター 等	分類する	KJ法的な手法, ベン図 マトリックス表(座標軸) 等	関連付ける	コンセプトマップ ウェビングマップの活用 等
思考	思考ツール								
比較する	ベン図(2つのベン図, 3つのベン図) 二次元表, メリット・デメリット ビフォー・アフター 等								
分類する	KJ法的な手法, ベン図 マトリックス表(座標軸) 等								
関連付ける	コンセプトマップ ウェビングマップの活用 等								
まとめ・創造・表現	◎相手や目的に応じた多様な表現方法 新聞、パンフレット、ポスター、レポート、報告会、プレゼンテーション パネルディスカッション、シンポジウム等 ◎対象エリア（学校、地域、市、県、全国、他国）								
実行	◎ボランティア活動（社会参画活動） ◎PR活動（イベント企画・実行、ゆるキャラ作成、商品開発等）								
振り返り	◎実行における評価（自己評価、相互評価、外部評価） ◎改善案の構築								

ステップ6 評価について考えよう。

1 資質・能力に応じた評価規準を設定しましょう。

学習活動を想定し、具体的な児童生徒の姿を想定しましょう。

誰が評価しても同じ評価となるように、妥当性、信頼性のある評価規準に！！

2 長期的ルーブリックを活用し、資質・能力の評価基準を設定しましょう。

総合的な学習の時間における長期的ルーブリックとは、資質・能力の特性を生かし、1単位時間において、繰り返し児童生徒の成長を見取ることや単元全体を通しての成長を見取るなど、形成的評価や総括的評価を行うことができる評価基準のことをいいます。

ルーブリック（Rubrics）とは？

ルーブリックは特定の学習課題に含まれる重要な要素と、成長が進む過程での各レベルにおける学びの特徴を詳しく述べて、表のような形にまとめたものである。

参照：監訳 土持ゲーリー法『「主体的学び」につなげる評価と学習方法ーカナダで実践されるICEモデルー』（2013）東信堂

ルーブリック（評価基準）作成の手順

- ①最高学年のゴールを想定し、複数の教職員で協働的に評価基準を作成しましょう。
- ②児童生徒と評価基準を共有し、自己評価、相互評価を通して、振り返りを行うことで、新たな課題へとつながる主体的な学びに生かしましょう。
- ③評価基準の共通理解を図る上で、具体的な児童生徒の姿や作品例（アンカー）を示しましょう。
- ④実施後、複数の教職員によって同じサンプルの採点を行い、評価が統一されているかについて検討しましょう。
- ⑤評価結果が、児童生徒の実態と異なる場合は、評価基準の修正をしましょう。

また、原因を分析し、指導の改善に生かしましょう。

※このような一連の過程を繰り返し行うことによって、評価の妥当性、信頼性を図ることができます。

※児童生徒の実態は、学校ごとに違います。ルーブリック（評価基準）は、各学校の児童生徒の実態に応じて作り上げるものです。



3 評価方法について

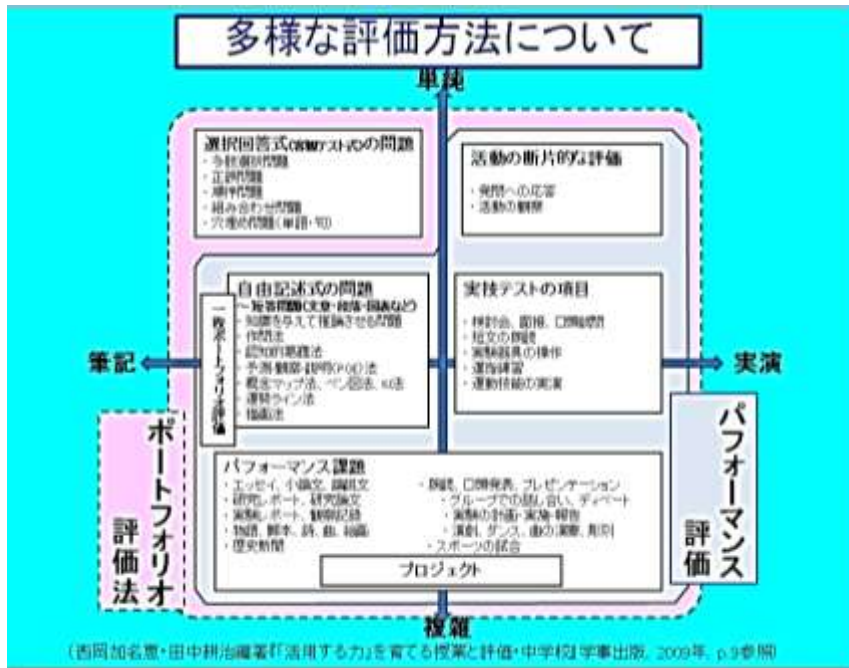
育成を目指す資質・能力の特色に応じた方法で、児童生徒のよさや成長について評価しましょう。

資質・能力	評価方法
知識及び技能	チェックリスト (自己評価, 相互評価, 外部評価)
思考力, 判断力, 表現力等	パフォーマンス評価(長期的ルーブリック) 行動観察 ワークシート
学びに向かう力, 人間性等	制作物 ポートフォリオ 等

1時間で見取ることができるものと、長期的に見取ることが必要なものがあります。

行動観察で見取る場合には、具体的な目指す姿を教職員同士はもちろん、児童生徒と共有していくことで、他者評価に生かすことができます。

外部評価をしてもらう際にも、目指す姿の共有は大切なポイントです。



◎資質・能力によって、評価の仕方が異なるので、方法について吟味しましょう。

◎1単位時間や単元全体の評価を行うために、ポートフォリオを活用しましょう。



ステップ7 実践の課題から改善しよう。

- 1 単元終了時、年度末において、実践を振り返りましょう。
- 2 児童生徒の具体的な姿から、どのような力が育成できたか成果と課題について教職員全員で分析しましょう。
- 3 分析結果から、資質・能力の見直し、全体計画・年間指導計画・単元計画、評価規準、ルーブリック（評価基準）の見直しをしましょう。
- 4 年度当初には、児童生徒の実態や学習内容について引き継ぎをしましょう。
- 5 生活科の学習内容も考慮しましょう。
- 6 中学校区内の小学校、中学校で全体計画、年間指導計画、単元計画等の共有を図りましょう。
- 7 活用した資料やワークシート、協力者等をデータとして共有しましょう。

